

平成29年 学校自己評価システムシート (県立芸術総合高等学校)

目指す学校像	世界で活躍するアーティストを輩出するアカデミー
--------	-------------------------

重点目標	1 芸術的表現力と共通教科の学力の向上の二兎を追う意力の育成 2 これからの芸術表現者としての人間性と社会性の獲得 3 芸術系進学重視型専門高校としての期待に応える進路実績の確保 4 芸術が持つ潜在力を生かした地域社会の活力づくりの推進
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	7名
	事務局(教職員)	5名

年度目標		年度評価(2月15日現在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	■現状 ・県内唯一の芸術系4学科を擁す専門高校として、高度な芸術の専門教育を推進し、生徒一人一人の個性と能力を最大限に引き出すための教育の充実に努めている。 ・共通教科(数学・英語)において、少人数授業を実施するとともに、補習や課題等で生徒のニーズに応じた学習指導を展開している。 ■課題 ・生徒の専門教科と共通教科の学習バランスに対する意識を更に高め、学力向上に向けた取組を推進する必要がある。 ・生徒一人一人の進路希望を実現させるために、質の高い授業を展開するとともに、専門教科と共通教科の調和の取れた学習環境を更に充実させることが必要である。	1 芸術各分野の専門性向上を目指す 2 専門教科と共通教科の調和の取れた学習環境の実現	①【美術】制作、発表や講評会等での振り返りとおした「主体的・対話的で深い学び」に主眼をおいた指導法、学習観や指導観の全国レベルでの研究及び放課後補講での全員指導体制の強化【音楽】科目担当者間の連携による授業内容の工夫・改善【映像】新学習指導要領実施を視野に入れた映像表現系の進学を重視するカリキュラムの編成・改変【舞台】体験型学習を主とする授業内容の理解と定着の深化を図るため、言語化による振り返りと、プロである講師の指導に対する意識の効果的マッチング ②大学や外部機関等と連携し、より高度な専門性や本物に触れる機会の確保	①②「学校生活満足度調査」における専門教科への意欲的な取組を示す調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ③協働的な学びを通じた生徒の変容がアウトプットで確認できたか。 ④課題等における「言語化作業」や「振り返り作業」が適切に行われているか。 ⑤大学や外部機関等との連携の実績数及び実施後の生徒の反応、事後レポートやアンケート等の結果から知識・技能の向上がみられるか。	■更なる取組の工夫・改善により、芸術各分野の専門性の向上が実現 ①②「学校生活満足度調査」における専門教科への生徒の意欲的な取組を示す調査項目の肯定回答が91%で昨年度と同程度となった。 ③芸術系教科目と共通教科目の両者の「主体的・対話的で深い学び」に着眼した授業実践により、多面的に生徒の変容が認められた。 ④様々な形態での「振り返り作業」「言語化作業」が適切に行われ、生徒の思考の深化が認められた。 ⑤大学や外部機関等との連携実績は昨年度と同程度となり、本物に触れる体験を通じた知識・技能の向上が認められた。	A	■次年度への課題 ・【美術】各種研究団体との連携による言語活動を生かした新たな授業実践方法の研究が必要である。教員の「素拙」の技能を更に向上させる必要がある。【音楽】担任及び年次と連携しながら学力向上と学校生活に対する意識向上を目指す必要がある。【映像】平成31年度入学生教育課程編成に向けて変更点を明確化し、生徒募集に繋げる必要がある。【舞台】文章での振り返りを自らの言葉で語らせて、思考の深化を促していく取組の検討が必要である。 ・生徒の芸術的創造力や表現力の更なる向上を目指した先駆的、先進的な取組を実施するとともに、質の高い授業を展開する必要がある。 ・生徒の専門教科と共通教科の学習バランスに対する意識を更に高め、学力向上を目指す意力を鼓舞する取組をより一層推進する必要がある。 ■改善策 ・「Classiラーニングシステム」の導入・活用 ④朝自習の実施と考査前の自習室設置及び「スタディサポート」の積極的活用 ⑤夏季休業中の共通教科の補習と専門教科の行事等の日程調整を行い、共通教科の補習・専門教科の行事の両方に参加できる環境の整備
2	■現状 ・入学当初から学校生活における明確な目的意識を持った生徒が多く、現状の学校生活に満足している生徒・保護者は約9割にのぼる。 ・文化祭や体育祭等の学校行事や各学科の教育活動において、多くの生徒が主体的に判断し、行動することができている。 ■課題 ・生徒の規範意識を更に高めるとともに、自立する心や責任感、他者への思いやりや社会貢献の精神など、芸術分野における将来のプロフェッショナルとしての意識・基盤を育む必要がある。 ・自分の力で将来を切り拓き、自分の生き方を考えさせる教育を推進するとともに、生徒一人一人の実態に即した実効性の高い組織的な支援を展開する必要がある。	1 将来の芸術各分野のプロフェッショナルとしての意識の醸成 2 変化し続ける社会で生き抜くための自立心の獲得	①基本的な生活習慣こそは個々のパフォーマンスの充実を保障するということを全校集会を始めとする様々な場面で指導 ②プロフェッショナルとして、単にスキルだけではなく、自らを律し、自らの行動に責任を持つという意識を教員指導と生徒の相補的な生活指導で醸成 ③日常生活の「身だしなみ」から「プロ意識を萌芽した表現活動」までの全てが運動していることを自覚させるための指導を展開 ④文化祭や体育祭を昨年度以上のものにするために、生徒会本部と各種委員会の協力関係を更に強化	①②③④「学校生活満足度調査」における主体的な学校生活に関する調査項目及び学校生活の満足度(充実度)の肯定回答割合が9割程度になったか。 ①②③④「学校生活満足度調査」における生徒の生活マナーに関する調査項目の肯定回答割合が向上したか。 ④各行事をとおして、生徒同士の結びつきが強まり、学科間の交流が深まったか。	■芸術各分野におけるプロフェッショナルとるべく意識の向上が概ね実現 ①②③④「学校生活満足度調査」における生徒の主体的な学校生活に関する調査項目の肯定回答が89%、学校生活の満足度(充実度)の肯定回答が84%となった。 ①②③④「学校生活満足度調査」における生徒の生活マナーに関する調査項目の肯定回答割合が62%で昨年度と同程度となった。 ④学校行事における生徒会と実行委員会の連携がスムーズであり、各行事を通じた生徒同士の結びつきや学科間の交流の深まりが認められた。	A	■次年度への課題 ・芸術表現者としてのプロ意識を醸成するために発達段階に応じた適切な ・生徒の規範意識を更に高めるとともに、自立心や責任感、他者への思いやりや社会貢献の精神など、芸術文化を担う人材としての意識・基盤を育む必要がある。 ・自分の力で将来を切り拓き、将来の生き方を考えさせる教育を推進するとともに、生徒一人一人の実態に即した的確な支援を組織的に展開する必要がある。 ■改善策 ・マナー・ルールの指導、身だしなみ指導、完全下校時刻の徹底、遅刻指導、生活委員会における校門指導などの指導方法や指導内容等を改めて検討し、全教職員との共通認識、共通理解に基づく指導を展開する。 ・生徒に当事者意識を持たせるとともに、チームワークを強化するために学校行事や学科行事におけるリーダーシップとフォローアップの双方の視点を持たせる指導を実施する。 ・社会的課題への対処や人間関係について考えるための体験的な活動機会を提供する。
3	■現状 ・東京芸大、筑波大等の国公立大学や芸術系私大を中心に、約8割の生徒が現役で進学している。 ・進路支援システムが導入・活用され、生徒の多様な進路希望に適切に対応するための環境が整いつつある。 ■課題 ・芸術系大学への進学をはじめとする進路実績の本校に寄せられる期待に応えていく必要がある。 ・生徒が早期から自らの将来を見据え、強い目的意識を持って次の進路に向かうことができるよう、キャリア教育を充実させる必要がある。	1 第一志望の進路実現 2 大学等進学に向けた知・情・意の早期育成	①「FINE SYSTEM」の活用と1・2年次に「Classiラーニングシステム」を導入・活用 ②3年次で実力判定テストを実施して「推薦・AO入試出願支援システム」を導入・活用 ③6月から希望者対象の模試を行い、その結果と「COMPASS」を効果的に利用した一般教養指導を展開 ④生徒のニーズに応じた論文指導や面接指導の実施 ⑤本校が取組として一般教養科目を充実させようとしていることが明確になるような事業についての積極的な予算対応	①②③④⑤生徒一人一人が希望どおりの進路実現が果たせ、ニーズに応えた進路実績が確保できたか。 ②③推薦・AO入試、一般入試の見極めが新システムを利用して適切に行え、効果的な指導が実施できたか。 ②③④「COMPASS」「High School On Line」を効果的に活用し、適切な受験指導・面接指導が実施できたか。 ⑤一般教養科目の予算について十分な予算措置が講じられたか。	■生徒の進路希望実現に向けた様々なサポートを展開することで、第一志望とする進路が概ね実現 ①②③④⑤進路指導部と年次・学科が連携し、生徒一人一人の進路希望に沿った働きかけにより、ほぼ生徒の希望に見合った進路が実現できた。 ②③「推薦・AO入試出願支援システム」は概ね効果的に利用することができた。 ②③④「High School On Line」は面接指導で積極的に利用されたが、「COMPASS」は一般受験者数の減少に伴い、昨年度に比べて受験指導への利用は減少した。 ⑤予算は十分確保できた。	A	■次年度への課題 ・高大接続改革の動向と新学習指導要領の実施を踏まえた教育課程の編成と「高校生のための学びの基礎診断」の効果的活用を検討・実施する。 ・年次と学科及び共通教科が連携し、大学受験科目及び芸術系大学等への進学に必要な実技試験の効果的・効率的な補習や補講を実施するとともに、生徒の自学自習力を育成するための取組を実施する。 ・本校卒業生の大学進学後や卒業後の進路の情報を蓄積し、今後の進路指導及び生徒一人一人の要望に応じた情報提供に生かすとともに、各種進路ガイダンスの実施内容や実施形態を工夫・改善する。
4	■現状 ・地域コミュニティや関係機関と連携しながら、生徒が校外で様々な文化芸術活動を展開している。 ・芸術分野の次世代を牽引する人材を発掘するために学校広報活動を積極的に展開している。 ■課題 ・全教職員の総力を挙げて、芸術全体のブランディングを更に強化するための方策を検討・実施し、県内全域における本校の知名度を向上させる必要がある。 ・芸術が持つ潜在力を生かし、地域社会を活性化させ、魅力ある社会づくりに貢献する必要がある。	地域社会での芸術的表現活動を通じたブランディング強化	①生徒の創作活動や表現活動と地域社会との接点を積極的に創出 ②【美術】外部機関と連携した展示企画の推進と所沢市内中学校美術部との交流事業の新規実施【音楽】計画的な中学校訪問とWebサイトの更新頻度の増加【映像】学科の授業内容、作品などの紹介を全面的に推し進め、Webサイトによる広報活動の更なる強化【舞台】これまでの蓄積を生かしつつ「発信する学科」としてのブランディングの検討と演劇体験の種まき作業 ③「芸総アンパサダー会議」における各アンパサダーとの連携協力体制の更なる強化と具体的な取組の効果的実施 ④学校説明会や体験入学への参加状況の推移をデータ化し、分析検証結果を今後の生徒募集に活用 ⑤各学科が制作や企画に係わったものを学校として積極的に採用し、来客等に対する広報の推進	①②③生徒の校外における創作活動や表現活動の実施回数が前年度以上または同程度となったか。 ①②③④⑤本校の魅力や特色が中学生やその保護者、中学校等に伝わり、学校説明会等でのアンケート結果で肯定回答割合が向上するとともに外部機関等から寄せられる意見や感想等が好意的評価であったか。 ②③外部機関や「芸総アンパサダー」等と連携した広報活動の実績数が前年度以上または同程度となったか。 ④学校説明会や体験入学の参加状況の推移のデータを生徒募集活動に有効活用できたか、 ⑤事務局は情報発信窓口として情報の提供を積極的に行えたか。	B	■芸術表現活動でのアウトリーチを積極的に展開することで、芸術ブランドは一定程度強化されたが、同時に生徒募集の実効性を更に高めることが必要 ①②③生徒の校外における創作活動や表現活動の実施回数は40回で、昨年度のおよそ1.2倍となった。 ①②③④学校説明会や体験入学(体験レッスン)等の参加者アンケートでは好意的評価がほぼ100%であった。 ②③外部機関や「芸総アンパサダー」等と連携した広報活動の実績数は、前年度を大幅に上回った。 ④学校説明会や体験入学の参加状況の推移のデータを整理することで、学科ごとの特徴や傾向が読み取れたが、生徒募集活動への有効活用までには至っていない。 ⑤広報広報に係る予算は十分に確保したが、溢れている素材を十分に活用することができておらず、本校の魅力の発信はまだ不十分である。	

学校関係者評価	実施日 平成30年3月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
■評価項目(年度達成目標)1に対する学校自己評価年度評価の達成度A及び2に対する達成度は妥当である。 ・専門教科と共通教科の学習バランスは継続的な課題であるが、芸術総合高校に入学できた喜びを忘れることなく、いつも前向きに頑張っており、 ・優れた芸術表現を果たすには、様々な芸術作品を深く鑑賞できる力が必要であり、そのためには相応の知識が不可欠であることは言うまでもない。生徒に対しては前提を正しく伝え、共通教科においては芸術表現との関連性を強く意識した授業改善に取り組みが必要なのはではないか。 ・専門教科の鍛錬だけでは必ず限界が訪れる。その限界がどのようなものなのか理解するためには、大学入試を意識しているだけの授業ではなく、受験の更先にまで、学んだことが繋がっていくのだという認識が必要だ。 ・本物の芸術に触れる機会を増やすことが重要だと思う。	
■評価項目(年度達成目標)1及び2に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。 ・高校生としての基礎的レベルをしっかり学び、継続的な姿勢で表現力や創作意欲を伸ばしていきたい。 ・プロフェッショナルとしての意識を高校生に求めることは、いささか急性な印象を受けるため、あくまでもプロとしての意識の基盤を育むといった視点に立ち、段階的に責任を課すような環境作りが必要である。 ・校則についてはその中身にそもそも妥当性があるのか、生徒たち自身が自分たちのこととしてきちんと考えるべきである。	
■評価項目(年度達成目標)1及び2に対する学校自己評価年度評価の達成度Aは妥当である。 ・更に専門実技や技術・表現力を向上させるためにも、上級学校に向けて挑戦していきたい。 ・朝自習は徹底的にやっており、自習室の対策プリントも充実している。学芸の両立のために先生方が工夫していると感じている。 ・比較早い段階で将来の目標を定めている生徒が多い印象を受ける。 ・様々な影響を多方面から受ける中で、将来の夢が変わる人も多い。単線的な進路指導だけではなく、視野を広げる進路指導もあってよいと思う。	
■評価項目(年度達成目標)に対する学校自己評価年度評価の達成度は妥当である。 ・自分たちが培った芸術の力を地域に提供していくことこそアウトリーチに他ならない。これが「まち」をも作っていく力になるだろう。 ・芸総は県内唯一の高校であるため、新たな志願者を継続的に開拓する必要がある。芸総だからできるイベント(作品展や相談コーナー)など、4学科が合同で動くこと更に効果が大いと思う。 ・志願者獲得については、卒業後の成果を充実させることが第一であり、その事実を広くアピールすることが重要だと考える。	